

■障がいの種類について一どのようなことで困っているか？

○視覚障がい

視力の機能が十分でないため「見えない」または「見えにくい」状態であり、視力の程度によって「盲」「弱視」に大きく分けられます。また、視野や明暗順応、色の見え方等も人によって様々です。

困難なこと<例えば>

- ・板書やスライド、ビデオ等の教材を読み取るのが難しい。
- ・地図や案内表示を読み取るのが難しい。
- ・指示語の理解や非言語的コミュニケーションが難しい。
- ・教室内の空いている席や他の学生の様子が分かりづらい。

○聴覚障がい

「聞こえない」または「聞こえにくい」状態のことをいいます。聴力損失の程度により「聾」「難聴」に分けられます。音が小さく聞こえたり、様々な音を聞き分けることが困難であったりと、聞こえ方や聞こえにくさには個人差があります。

困難なこと<例えば>

- ・口頭による連絡やアナウンスが分からない。
- ・講義や語学科目、グループディスカッションについていけない。
- ・友達の会話に入っていけない。
- ・聞こえにくさが一見して分かりにくい。

○言語障がい

発声や発語など、ことばに関して困難さのある状態をいいます。発音の明瞭さや話し方の流暢性、言語の理解や表現等に困難を感じます。聴覚障がいによるものや、知的障がいや発達障がい等と並存することもあります。

困難なこと<例えば>

- ・話しことばによる他者とのコミュニケーションが円滑に進まない。
- ・ゼミ形式の授業やディスカッションの際に引け目を感じる。
- ・プレゼンテーションや人前で意見を述べる際に苦痛を感じる。

○肢体不自由

四肢（手と腕・足と脚）や体幹（胴体）が病気や怪我で損なわれ、身体の運動や動作に不自由や困難が生じている状態をいいます。障がいの部位や程度によって困難を感じる状況は異なります。

困難なこと<例えば>

- ・機器の操作やドアの開閉等が困難。
- ・座席移動や教室移動の際に時間がかかる。

- ・交通機関や施設利用の際に制限を受ける。

○病弱・虚弱

慢性的な疾患および身体虚弱の状態が継続して医療又は生活規制を必要とする状態をいいます。病弱とは、慢性疾患等のため継続して医療や生活規制を必要とする状態、身体虚弱とは、病気にかかりやすいため継続して生活規制を必要とする状態をいいます。内臓の機能障害や神経疾患、アトピー性皮膚炎や食物アレルギー等が該当します。発作や体調不良により、活動の制限が必要であったり、外見からは健康な学生と区別がつかない場合も多いため、周囲から理解されにくいといった困難さがあります。

困難なこと<例えば>

- ・体調不良や発作による不安。
- ・実技等での活動制限。
- ・周囲の理解不足による心理的孤立。

○発達障がい

中枢神経系の障がいがあり、認知・コミュニケーション・社会性・学習・注意力等の能力に偏りや問題を生じて、生活に困難をきたす状態をいいます。「限局性学習症 (SLD)」「注意欠陥・多動症 (AD/HD)」「自閉スペクトラム症 (ASD)」に大別されます。複数の特性を併せ持つ人、運動面の不器用さや感覚過敏が見られる人もいます。物事の捉え方や行動の仕方が大多数の人とは違っているため、対人関係や学業・生活上の問題が生じることがあります。また、本人の自覚が難しいこともあるため、周囲の気づきや支援が求められます。

困難なこと<例えば>

- ・他人の感情を理解すること、双方向のコミュニケーションが困難。
- ・遅刻や不注意によるミス、忘れ物や提出物の遅れが多い。
- ・スケジュール管理が難しい。複数の課題をこなせない。
- ・衝動的な問題行動や周囲とのトラブルを起こしやすい。
- ・得意なことと不得意なことの差が大きいため、努力不足等と捉えられやすい。
- ・障がいについて自覚しづらい。必要な支援を説明できない。

○精神障がい

「統合失調症」「気分障害」「不安障害」「睡眠障害等の疾患により、継続して医療や生活への制限が必要となるものをいいます。疾患の症状や服薬の影響により、学業や生活上の困難を生じることがあります。発達障がい等と重複して症状が出ている場合もあります。

困難なこと<例えば>

- ・症状の変動や服薬の影響により、生活に制限を受けやすい。
- ・苦手な状況や精神的負荷により症状が悪化しやすい。
- ・見た目では障がいと分かりづらく、怠けている等と誤解されやすい。
- ・病感や病識が十分になく、自己判断で治療を中断してしまうことがある。